



3位立

老若男女が  
楽しめる

赤ちゃんからおじいちゃんやおばあちゃんまで、本当に幅広い年代の方が等々力にはご来場なさいます。特に、小さなお子様を連れたご来場者が多いのは、川崎市の特徴かもしれませんね。誰もが「来場しやすい」という雰囲気を受け継いでいくと同時に、現在足りないと思われる点が補われる、そういうスタジアムになっていくことが理想でしょう。

# 3位

## 老若男女が 楽しめる



## ☆子どもが楽しめる

「誰もが家族！ファミリーみたい！ファミリーにやさしい競技場で助かります。託児室にも何度もお世話になっています。高さが低いことで、フロントくんやピーカブーともハイタッチできる。競技場まわりの公園でも、試合前後で遊べるし、子供達は楽しみにしています！ただ、唯一、オムツ替えと授乳ができる箇所が少ないと思います」(高津区／30代女性)

「ゴール裏の席の無い段々になっているところも、観戦するには大変ですが、あそこで子供たちが思い思いに遊びだしてしまったりしているのを観ていると心が和みます」(東京都／20代女性)

「ケンゴの関係の本などでフロンターレのサポーターは「子供を大切にしている。出待ちにしてもイベントにしてもサポーター席にしても子供が一番前にいる」と記載されていました。自分自身も子供がいたら前に送ってあげます。そんな風土が根付いています。それが一体感の源なんだと思っています。自分自身のストレスの捌け口ではなく、純粹にフロンターレを応援し、選手をリスペクトし、わが子、地域の子らにそのお手本になってもらって、子供たちのサッカーのすそ野を拡げてもらうように。。」(多摩区／40代女性)



# 3位

## 老若男女が 楽しめる



## ☆ご年配の方もご来場

「赤ちゃんからおじいちゃんおばあちゃんまで一緒に楽しく応援できる雰囲気大好きです」(多摩区／50代女性)

「チームとサポーターとの距離の近さ、子供、老人の多さ」(中原区／30代男性)

「等々力に来るとサッカーの試合に感動するのは当然ですが老若男女みんながアツい時間を一緒に過ごしていると感じるだけで感動するんです。大きな歓声に包まれる度に“川崎が1つになっている”と感じます」(多摩区／30代男性)

「娘が5歳の時に、一緒にフロンターレを見に行っていて以来、ずっと見続けています。5歳の娘は、周りのサポーターの人たちに遊んでもらって、退屈せずに競技場に足を運んでいました。その娘も、今では中学生になり、今度は、周りのちびっ子たちの面倒を見ている。娘が大人になって子供が生まれたら、きっと、おじいちゃんが面倒を見てくれるでしょう。たとえ試合に集中できていなくても、小さい子からお年寄りまで、フロンターレを応援しています。そんな、世代を超えた、ほのぼのとした一体感がフロンターレの良さだと思います」(幸区／40代男性)



# 3位

## 老若男女が 楽しめる

### ☆その他 寄せられたご意見

#### ●サポーター同士の触れ合い

「紙製のゲーフラのようなものを持って試合に行ったとき、コアゾーンの前方にいたので「水がかかるかも知れないけど、大きい袋を持ってくるのを忘れてしまった」といった話をしていました。そうしたら後ろの席にいらっしゃったサポーターの方が、「こんな素敵なゲーフラ、濡れたらもったいないですから」と言って大きなビニール袋を1枚くださいました。全く知らない人ともこのような交流が持てる、これは等々力が作り出した「一体感」のひとつなのではないかと思いました」(横浜市／10代女性)

#### ●相手サポーターにも温かく

「個々のサポーターのおもいを一つにまとめている大きな原動力が、等々力会場でのMCだと思っています。実況や業務連絡、選手紹介はもとより、TVではなかなか放映されませんが、会場に来てくださった相手チームや相手サポーターへの感謝のアナウンスは初めて川崎Fの応援で等々力に行ったときも感動しました。「そうだ、相手を不利な状況にオチやっけてなして、勝つのではなく、相手をリスペクトして、互いに最高のパフォーマンスを引き出して、その上で、選手・スタッフ・サポーターで一体となって勝利するのがフロンターレなんだと気づかされたアナウンスでした。他の会場のアナウンスは知りませんが、等々力がNo1だと思います」(多摩区／40代女性)

「私は試合前にDJが等々力へ来てくれた相手サポーターへ「等々力競技場にお越しくださしまして誠にありがとうございます。」と感謝の言葉を伝えたときの雰囲気競技場の「一体感」を感じます。一瞬にして空気を造ってくれるDJ。相手サポーターへ向き心を込めて拍手を送るフロンターレサポーター。拍手を返してくれる相手サポーター。競技場に試合を観に行っただけでも最も好きな瞬間のひとつです。どんなにフロンターレサポーターが増えたとしても相手サポーターが等々力へ来てくれなくては盛り上がりません。相手サポーターもまた等々力へ来たいと思ってくれるよう、「遠くから来たサポーターも、近くから来たサポーターも、等々力へ来てくれてありがとう。」そんな『Welcome』の気持ちが伝わる競技場であり続けたいです」(中原区／30代男性)

